



ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちようさ すたでいちえつくけつか  
**全国学力・学習状況調査・みえスタディチェック結果**

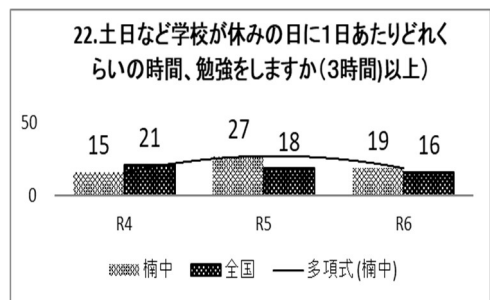
4がつ 3ねんせい せいと たいしよう ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちようさ 1・2ねんせい たいしよう  
 4月に3年生の生徒を対象に全国学力・学習状況調査を、1・2年生を対象に、みえ  
 すたでいちえつく おこないました。その結果や分析をお知らせします。

【全体の傾向】

		こくご 国語	すうがく 数学	りか 理科
ねんせい 1年生	し へいきん ひかく 市平均と比較して	▼ やや下回る	▼ やや下回る	▼ やや下回る
ねんせい 2年生	し へいきん ひかく 市平均と比較して	▼ やや下回る	▼ やや下回る	▼ やや下回る
ねんせい 3年生	ぜんこくへいきん ひかく 全国平均と比較して	○ ほぼ同じ	◎ 上回る	

・学年が上がるごとに結果が良くなっており、それは、家庭学習の習慣化が全国平均よりも高く、その成果と考えられる。

また、基礎基本を重視し、ICTを積極的に活用するなどしたことも大きく、今後も継続した取り組みが必要です。また、すべての教科・学年において、無回答率が四日市市の平均と比べて高いため、普段の授業から、粘り強く取り組む習慣をつけていく必要がある。



【国語】

1年生…「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」が13.4ポイント下回っていた。折に触れて、自分の考えを書いたり、発表したりできるようにすることが必要であると考え。

2年生…「修飾語」「主語・述語」といった文法関係の問題の正答率は高く、文法・漢字などには強い。しかし、長文読解の問題に無回答が多く、長文を扱う場合に内容の把握と、個人の考えを出し、文章化させることが必要であると考え。

3年生…「読むこと」の観点の正答率が全国平均を3ポイントほど高く、特に、短歌に用いられている表現技法を選択する問題の正答率が大きく上回っていた。表現技法が出てきた際に、そのつど表現技法の名前や効果をおさえていたことが要因であると考えられる。

【数学】

1年生…すべての領域において、市正答率を下回っていた。基礎的な内容の理解が不十分であることが考えられるので、基本的な計算力をつけていくため、授業の中で計算トレーニングを行う時間を確保するなどしていく。

2年生…すべての領域において、市正答率を下回っていたが、問題ごとでは、およそ半数の問題が市正答率を上回っていた。昨年度から継続して丁寧に学習してきた成果ともとれる。

3年生…全体としては、平均正答率が全国平均52.5%に対し、本校は56.0%と3.5ポイント上まわった。「図形」については、全国平均と比べて4.0ポイント高い。昨年度、市平均より1.0ポイント

低く、ICT機器を使い、イメージしやすくなるように心がけて指導を行った成果といえる。

【理科】

1年生…平均正答数が、市平均を1.2ポイント下回った。結果を見通して実験を構想する資質・能力があるという強みはあるものの、条件制御に関しては弱みがあると考えられる。

2年生…平均正答数が、市平均を0.4ポイント下回った。用語に関する問題では正答率を上回るものが多く、基本的な知識は定着していると考えられる。今後、考察力を伸ばしていくために、実験結果の収集だけを目的とするのではなく、実験方法の見直しや改善を問うことを意識していく必要がある。

《生活アンケートより見えてきたもの》

・自己肯定感が高く、将来に展望を持ち日々の学習等に取り組んでいる生徒が多い。また、互いの良さを認め合い、時には議論し意見交換をしながら学習に取り組んでいる様子も見受けられる。しかし、自分の考えを発表する工夫をしたり、自分に合った学習方法を工夫するなどについては、今後取組が必要と考えている。

《主な項目より》

○「自分には良いところがある」と答えた割合が全国比より5P高い。昨年度より大幅に上回った。普段、取り組んでいるスマイルタイム等、これまでの他者との活動や1分間スピーチ等の活動を互いに認め合う活動の成果といえる。

○「将来の夢や目標を持っている」と答えた割合が全国比より7P高い。職場体験学習をはじめ、さまざまな出会いを通して、キャリア教育が充実してきた成果といえる。

○「学校に行くのが楽しい」と答えた生徒が9割を超える。充実した授業、仲間との関係など、学校が楽しい場所であり続けられるように努力していくことが大切である。

○「自分と違う意見について考えるのが楽しい」と答えた生徒の割合が全国平均と比べて8P高い。道徳等の教科において、考え議論することを主眼に置いてきた成果といえる。また、「学級生活をよくするために学級活動で話し合い、お互いの良さを生かして解決方法を決めている」と答えた生徒は全国比4P高く、互いに認め合い、話し合う活動が日常的に行われている成果と考える。

▼毎日、朝食を食べる子が全国平均より、8P低く、早寝早起き朝ごはんの取り組みを継続する必要がある。

▼「自分の考えを発表する機会では、うまく伝えるように資料や文章、話の組み立てを工夫したか」については、全国比5P低い。自分の考えをまとめたり、発表の工夫をすることについては、今後様々な機会を通じて指導していく必要がある。

▼「学習した内容について、分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげたか」については、全国比8P低い。授業における振り返りの充実など、授業改善の必要がある。

